

第8回 山都塾

テーマ：「山都町の観光の未来」



2月19日、第8回山都塾が「山都町の観光の未来」をテーマに開かれました。講師は、一般社団法人山都町観光協会長の山下泰雄さん。当日は、町の観光の将来についてのお話や、浜町商店街をご案内いただきながら散策しました。小中学生から大人まで、約40名が楽しく参加しました。

最初に役場本庁多目的ホールにて、座学でのお話を伺いました。町の観光とは何か、また地域での経済やお金の循環の大切さなどについて、とても分かりやすくお教えいただき、参加者は興味津々に聞き入りました。その後浜町商店街へ出かけ、山下会長の独特のユーモア溢れるお話をお聞きしながら、みんなで和気あいあいと歩きました。お話を伺うことで、それぞれのお店の個性や特徴がさらに輝いて見えてくるようでした。

また今回は、会場に戻って質疑応答などの後、平成28年度「山都塾」修了式を執り行いました。塾長である工藤町長からは、「学んだことを胸に、将来地域を誇りに思い語れるようになってほしい」と塾生への熱いエールが送られました。アンケートには「商店街などについて知れてよかった。今後活かしていきたい」等の言葉が寄せられました。天候にも恵まれ、地域の宝物を再発見できた充実した今年度最後の開催となりました。



東京グランメゾン・チャリティカレー ～イベント開催で山都町を支援～ 農産物のブランド化と情報発信に協力

山都町では、米やお茶、キャベツやトマトといった安全安心な農産物の生産とPRを全国展開し、「山都ブランド」の定着と浸透のために、様々な取り組みを行っています。

東京や大阪など大都市の人々にその美味しい食材を実際に食べてもらい、山都町の魅力を知ってもらうイベントにも取り組んでいます。

「東京グランメゾン・チャリティカレー」は、東日本大震災で被災された東北の皆さんを支援しようということで始まったイベントで、今回で12回を数えます。

今回は、昨年の熊本地震をうけ、熊本にも支援をしていきたいということで企画されました。

東京の有名フレンチレストラン有楽町の「アピシウス」と京橋の「シェ・イノ」で開催されたイベントには、両レストランのファンと支援企画に賛同された参加者の皆さんが早朝から列をつくりました。各店限定600食用意されたカレーは好評で、午後3時には完売しました。

今回の企画は、「アピシウス」の親会社である㈱アベックスの事業統括本部顧問の佐野兼光さん（山都町出身）の提案で開催されたものです。支援金の一部を是非、通潤橋や棚田に甚大な被害があった山都町に支援したいとの意向と、せっかくチャリティカレーを作るのであれば、是非、山都町の美味しい農産物を使用してはとの提案があり、食材の提供に協力することになりました。



(通潤橋視察)

食材は、食農観光塾の塾生が生産したカラーピーマンや有機野菜を提供し、両店のカレーの材料として使われました。料理長からも高評価をいただき、また、次の機会にも食材として考えたいとのことでした。イベント当日は通潤橋の被災状況のパネル展示や応援はがきのプレゼントも行われました。

～支援金の贈呈式と生産者との交流会開催～

昨年12月11日には、佐野顧問とアピシウスの永井総支配人、シェ・イノの古賀料理長が山都町を訪問し、工藤町長に支援金を贈呈されました。

佐野さんは「常々、愛する故郷山都町のために何か協力できることはないかと考えておりました。今回の熊本地震を受けてその思いを強くし、今回の企画となりましたが、これからも、山都町には美しい自然や美味しい農産物や素晴らしい人材がおられますので、そうした資源を大都市で活かし情報発信していくお手伝いが少しでもできればと思います。」と挨拶されました。



(坂本牧場)

贈呈式後、通潤橋の視察や生産者との意見交換や交流会が行われ、生産者の畑やハウス施設の見学も行われました。

今後は、猪や鹿など有害獣の処理加工施設も完成しますので、処理加工技術の向上に力を入れ、食材として提供できるシステム構築に力を入れていきます。



(贈呈式) 左から 工藤町長、古賀シェフ、永井総支配人、佐野顧問



(中島農園)